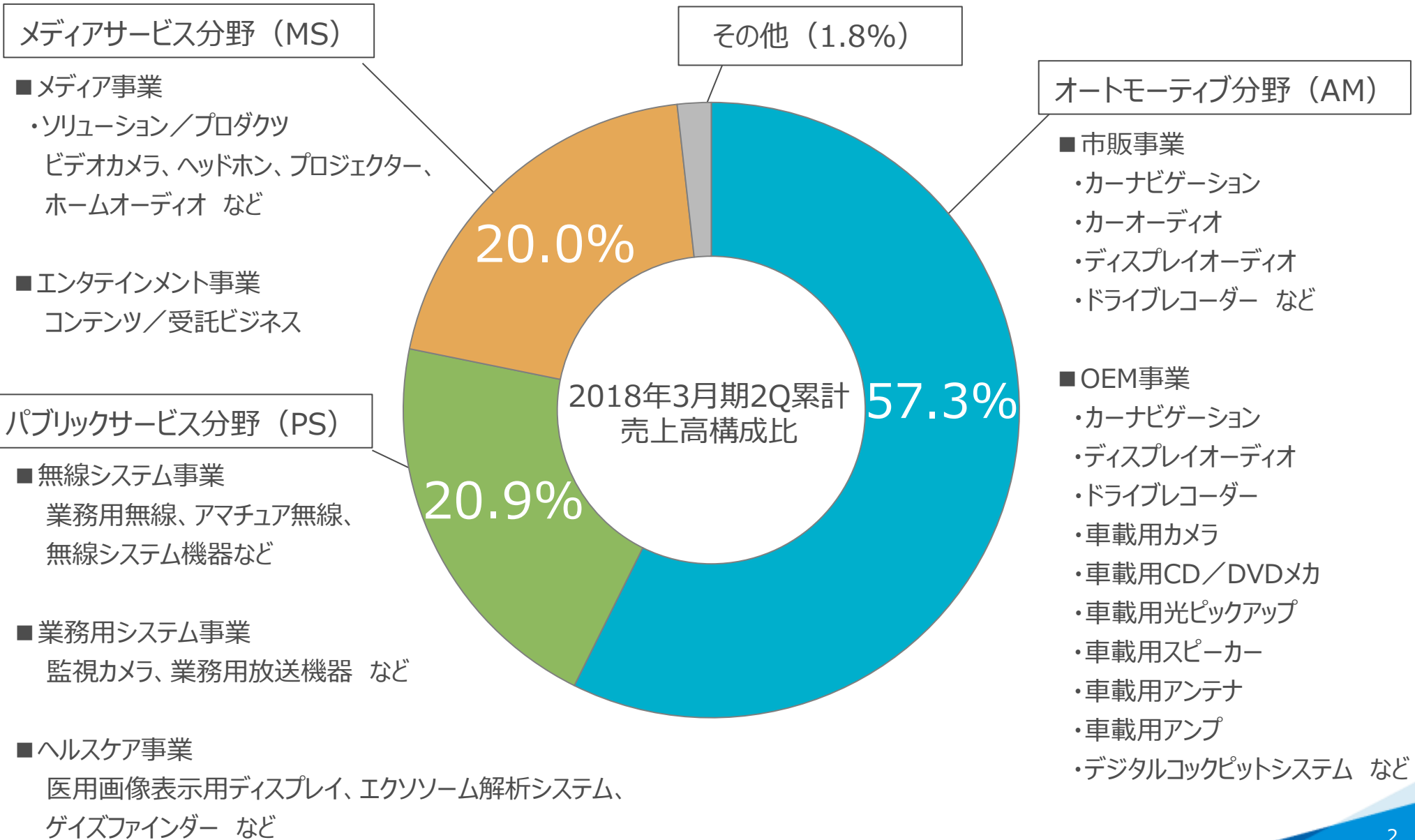


JVCケンウッド 決算説明資料
2018年（平成30年）3月期 第2四半期

2017年11月1日

株式会社JVCケンウッド

事業内容



- 1. 2018年3月期 第2四半期決算概況**
- 2. 2018年3月期 通期業績予想**
- 3. トピックス**

1. 2018年3月期 第2四半期決算概況

2. 2018年3月期 通期業績予想

3. トピックス

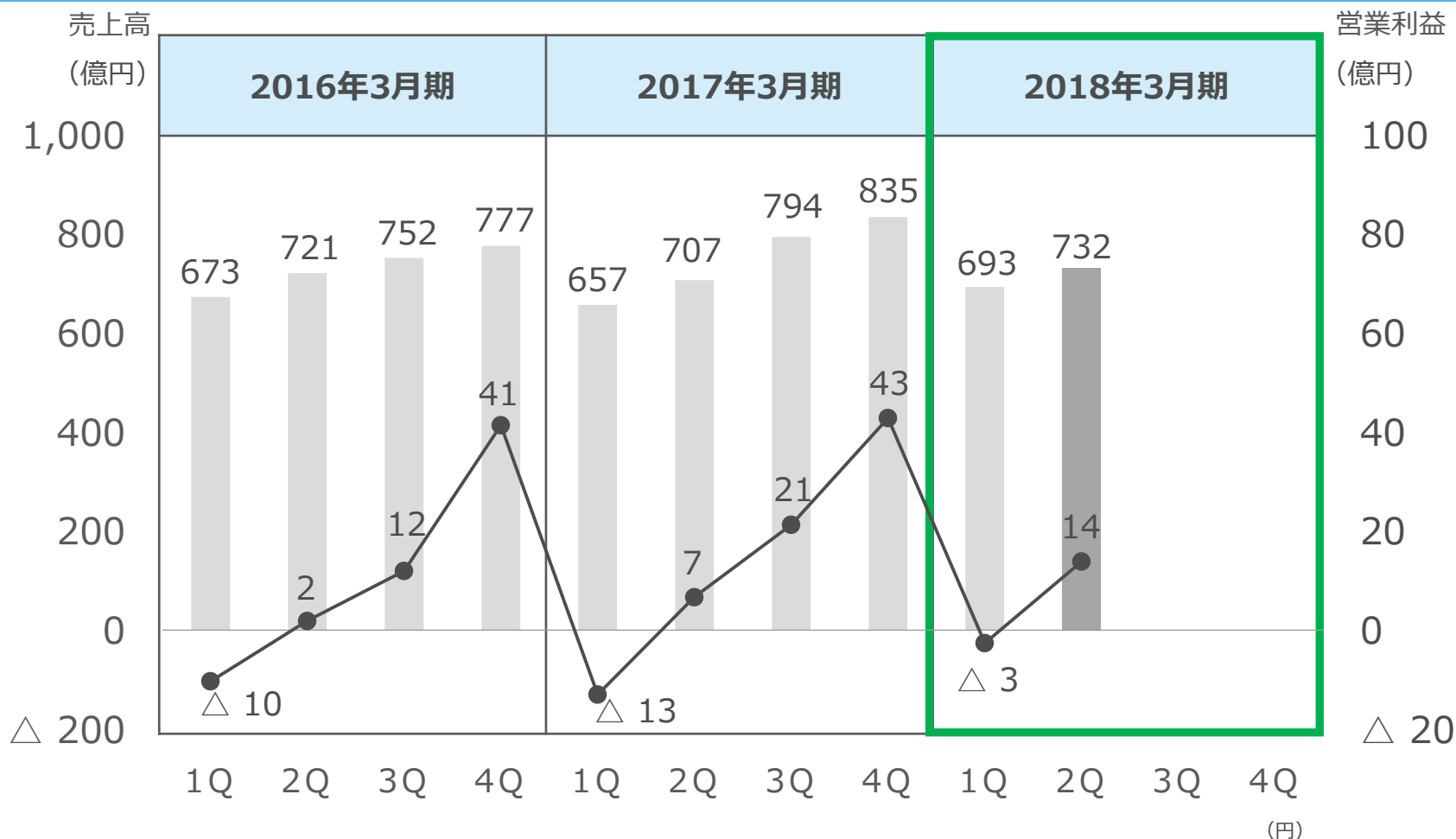
2018年3月期 2Q決算（累計） ハイライト

- 売上高は、AM分野OEM事業の大幅な販売増により、増収
 - 営業利益は、AM分野OEM事業の大幅な増益により、黒字転換
 - 経常利益は、営業利益の大幅な増加により、黒字転換
 - 四半期純利益は、経常利益の増加、特別損益改善により、損失が大幅に縮小
- (億円)

	'17/3期 2Q累計		'18/3期 2Q累計		
		構成比		構成比	前期差
売上高	1,364	100.0	1,425	100.0	+ 61
売上原価	1,009	74.0	1,053	73.9	+ 44
販売費及び一般管理費	361	26.5	360	25.3	△ 1
営業利益	△ 6	△ 0.5	11	0.8	+ 18
経常利益	△ 15	△ 1.1	7	0.5	+ 21
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 57	△ 4.2	△ 3	△ 0.2	+ 55

		'17/3期					'18/3期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
損益為替レート	1米ドル	108円	102円	109円	114円	108円	111円	111円			
	1ユーロ	122円	114円	118円	121円	119円	122円	130円			

2018年3月期 2Q決算 四半期別実績推移



		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
損益為替レート	1米ドル	121	122	121	115	108	102	109	114	111	111		
	1ユーロ	134	136	133	127	122	114	118	121	122	130		

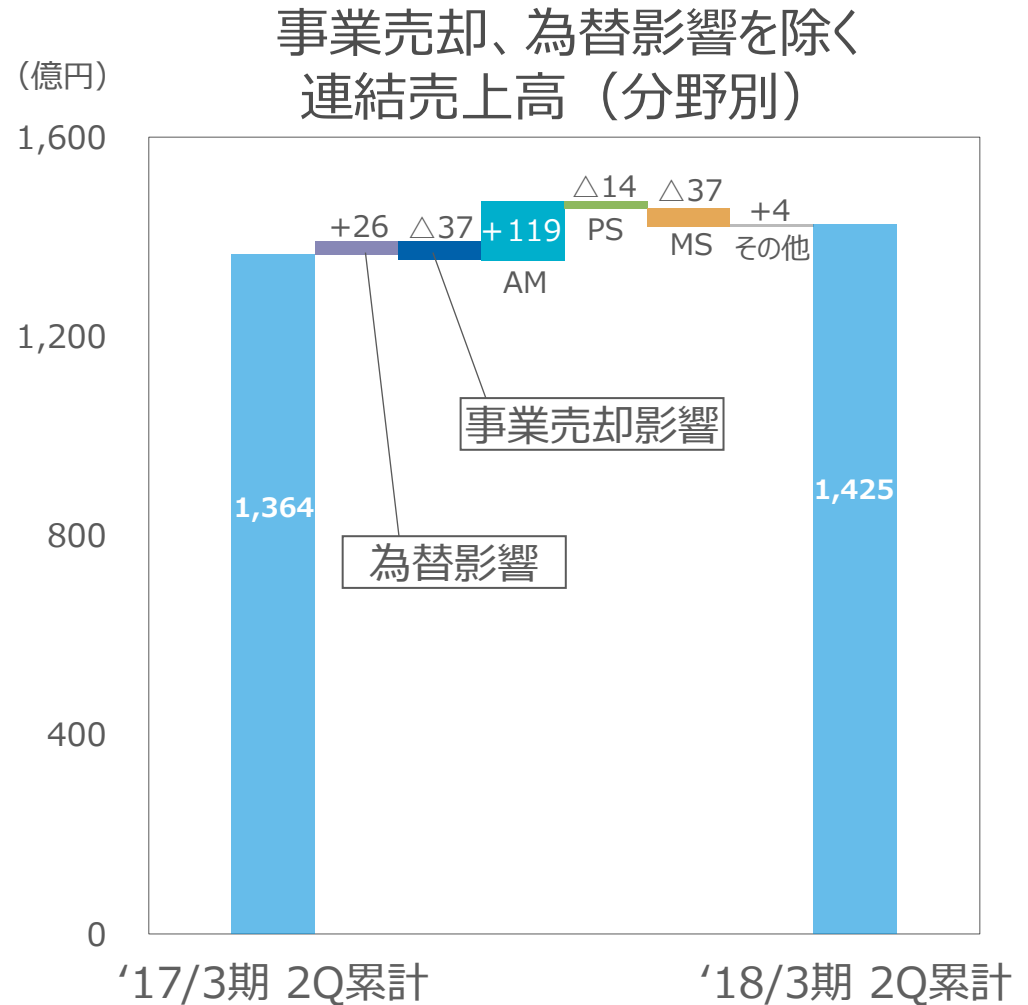
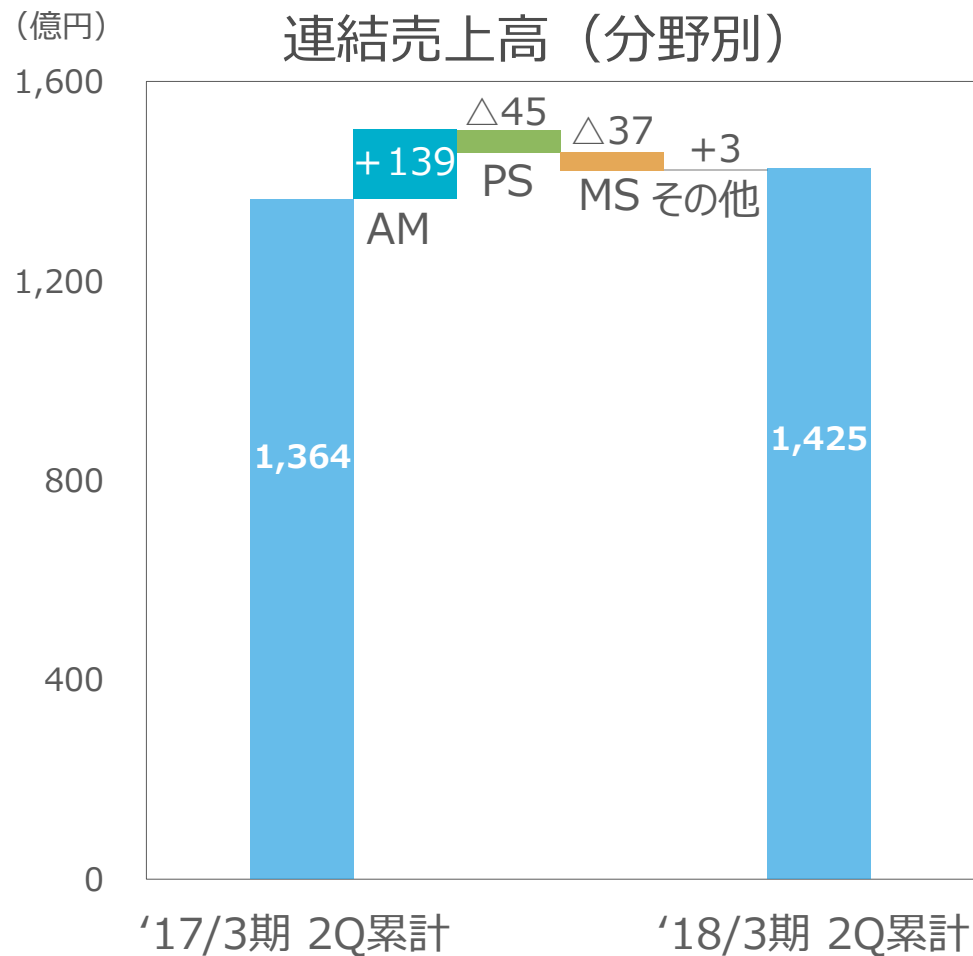
		2017年3月期		2018年3月期	
		上期	下期	上期	下期
売上高	(億円)	1,394	1,528	1,364	1,629
営業利益	(億円)	△ 8	53	△ 6	64

2018年3月期 2Q決算（累計） 分野別の状況

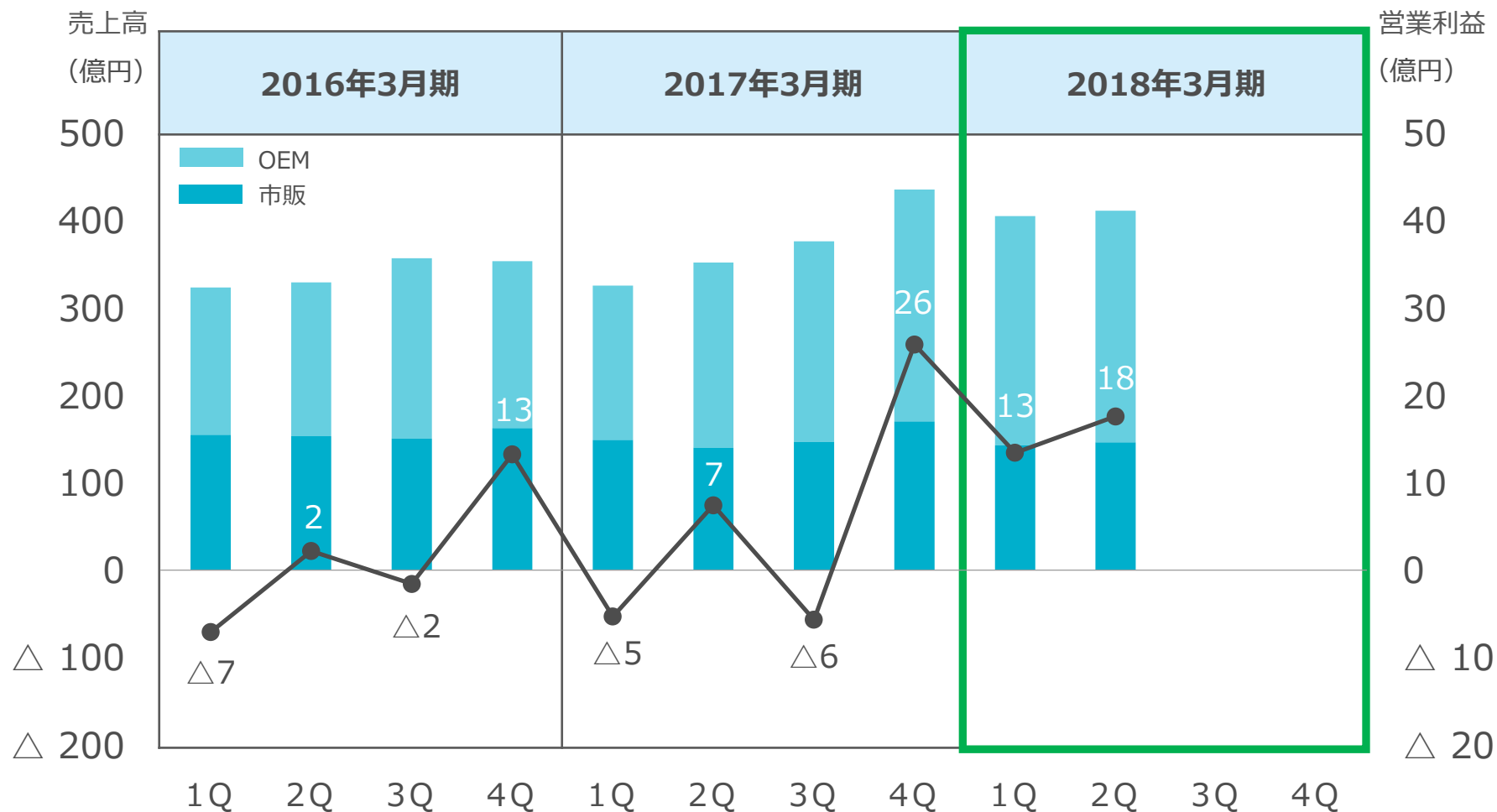
(億円)

		'17/3期 2Q累計	'18/3期 2Q累計	増減	前期増減率	要因
オートモーティブ	売上高	678	817	+139	+20.4%	* OEMの大幅増により、分野全体では増収 * OEMの大幅増により、分野全体では大幅増益
	営業利益	2	31	+29	-	
パブリックサービス	売上高	342	297	△ 45	△13.1%	* 業務用システムの事業売却影響△35億円などから、分野全体でも減収 * 無線システム、業務用システムともに減益となり、分野全体でも損失拡大
	営業利益	△ 6	△ 17	△ 11	-	
メディアサービス	売上高	322	285	△ 37	△11.3%	* メディア、エンタテインメントとも販売減となり、分野全体でも減収 * メディアの損失が縮小し、分野全体では損益改善
	営業利益	△ 4	△ 3	+2	-	
その他 (セグメント間消去を含む)	売上高	22	25	+3	+15.3%	
	営業利益	2	△ 0	△ 2	-	
合計	売上高	1,364	1,425	+61	+4.5%	
	営業利益	△ 6	11	+18	-	

2018年3月期 2Q決算（累計） 連結売上高（分野別）



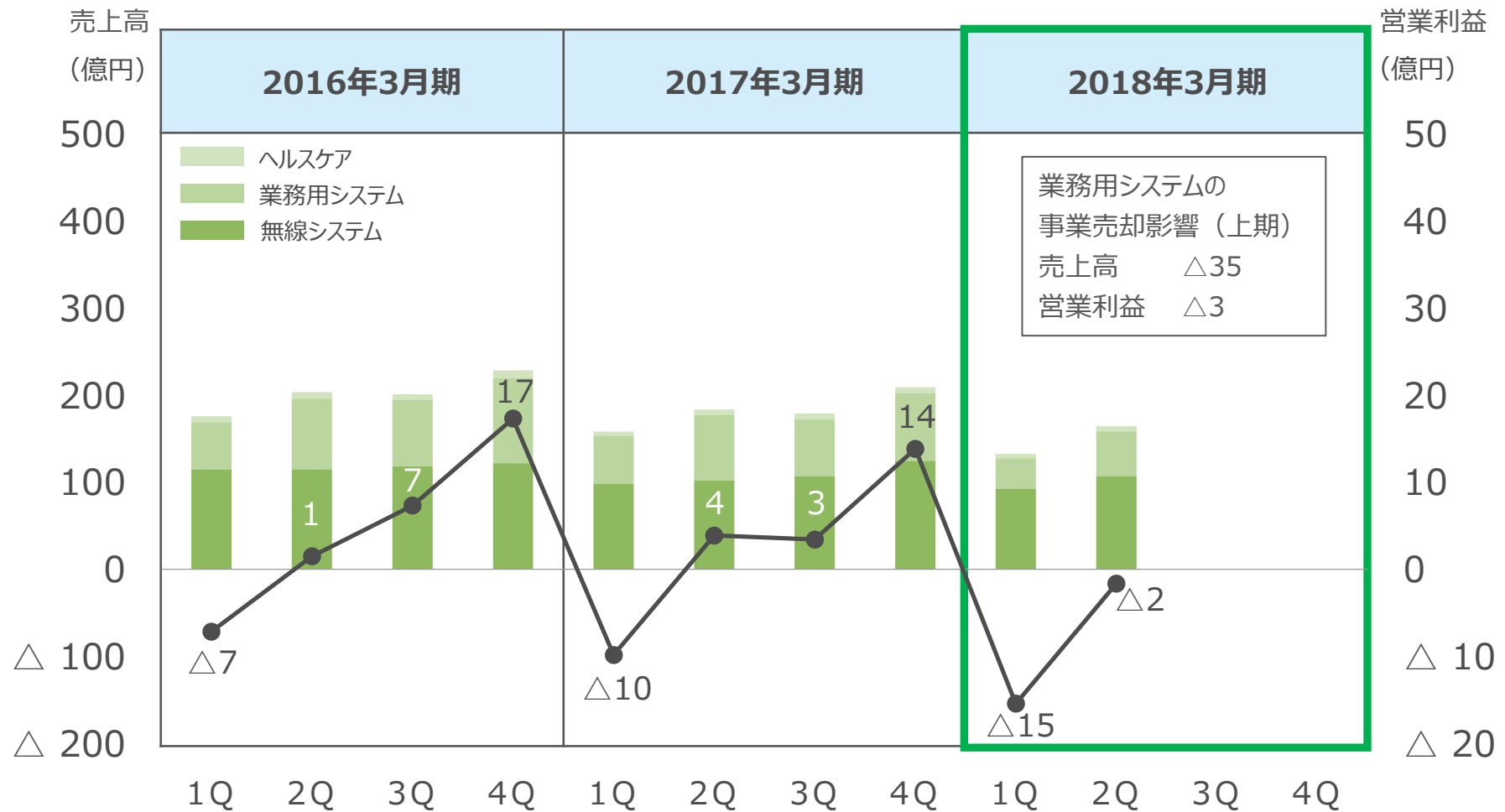
2018年3月期 2Q決算 AM分野 四半期別実績推移



	2017年3月期		2018年3月期	
	上期	下期	上期	下期
売上高	653	711	678	812
営業利益	$\Delta 5$	12	2	20

(億円)

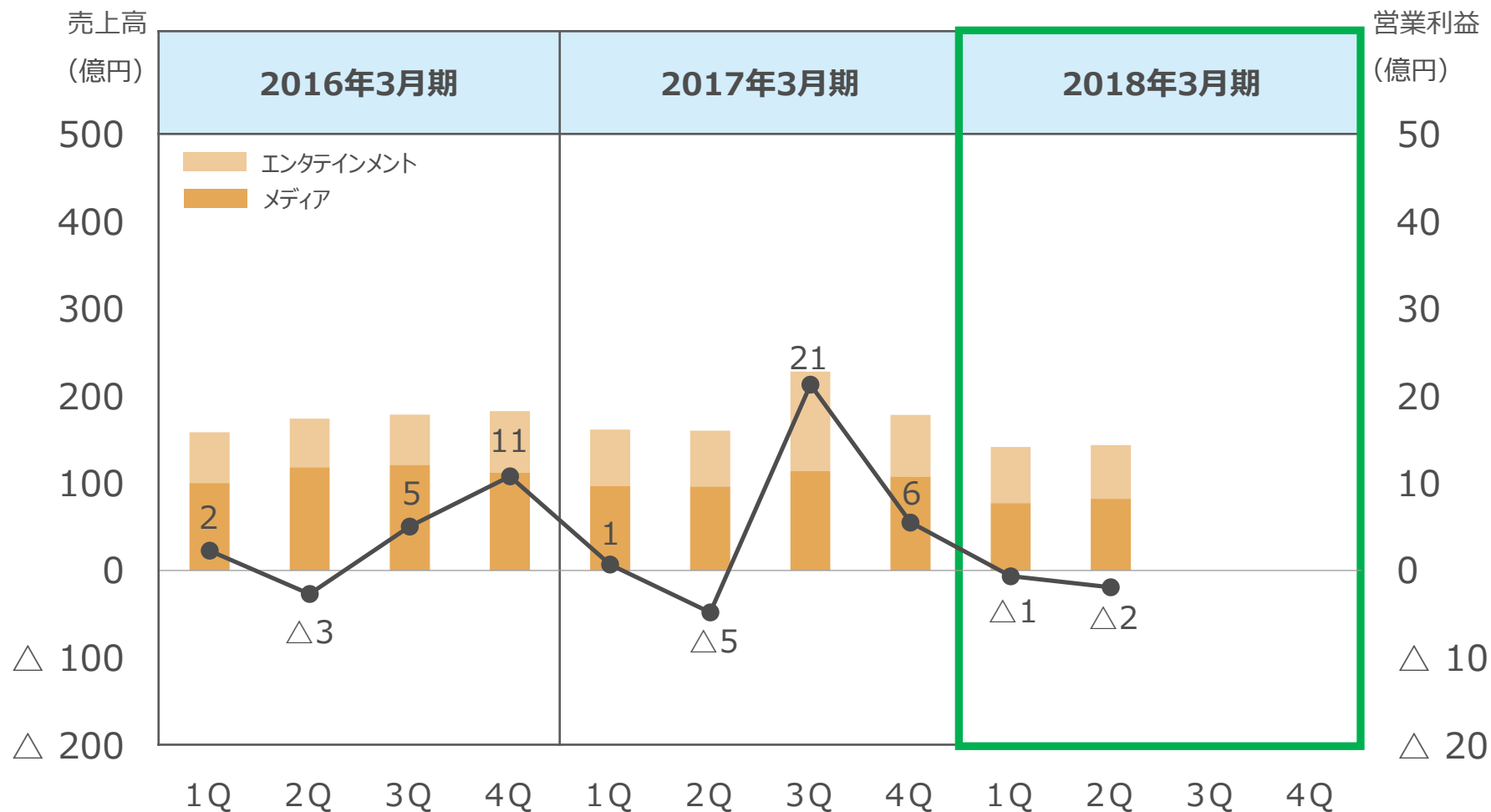
2018年3月期 2Q決算 PS分野 四半期別実績推移



	2017年3月期		2018年3月期	
	上期	下期	上期	下期
売上高	379	430	297	476
営業利益	$\Delta 6$	25	$\Delta 17$	17

(億円)

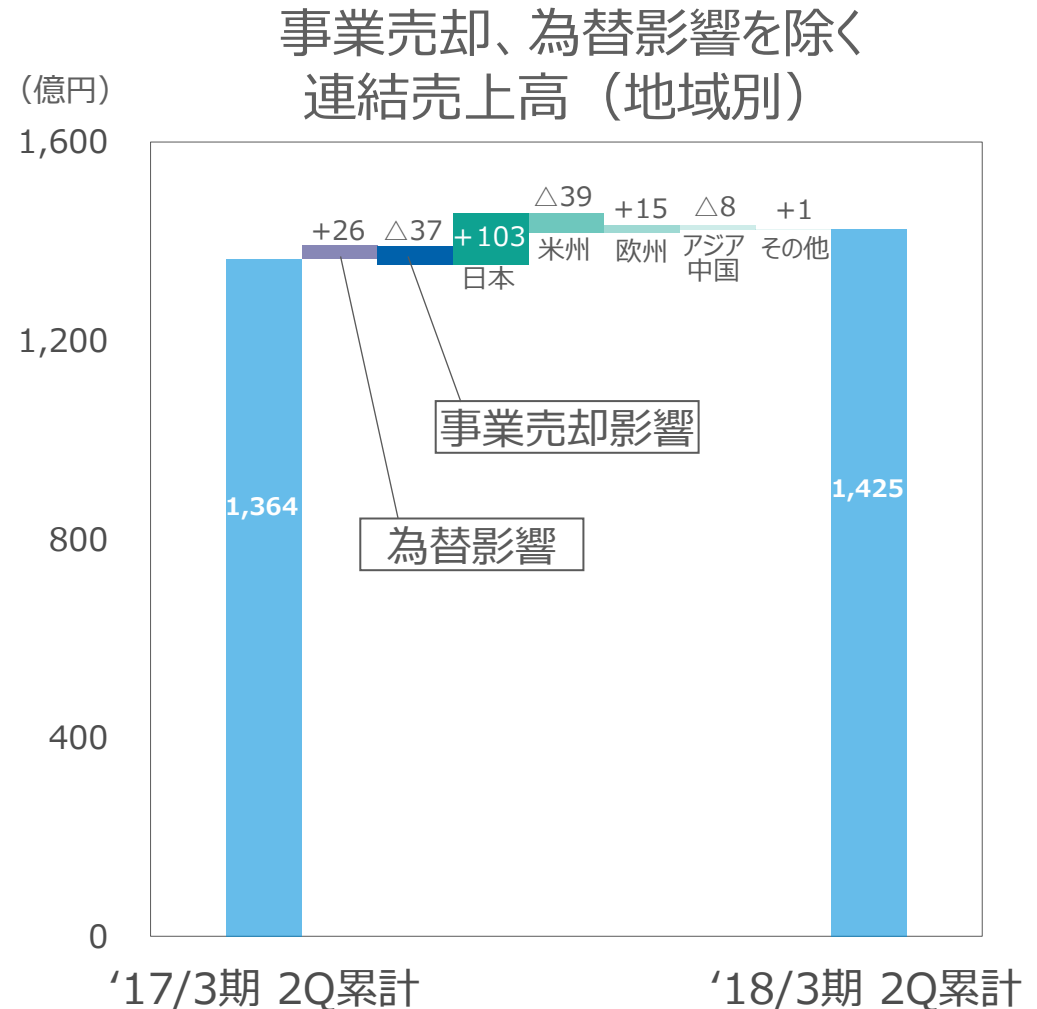
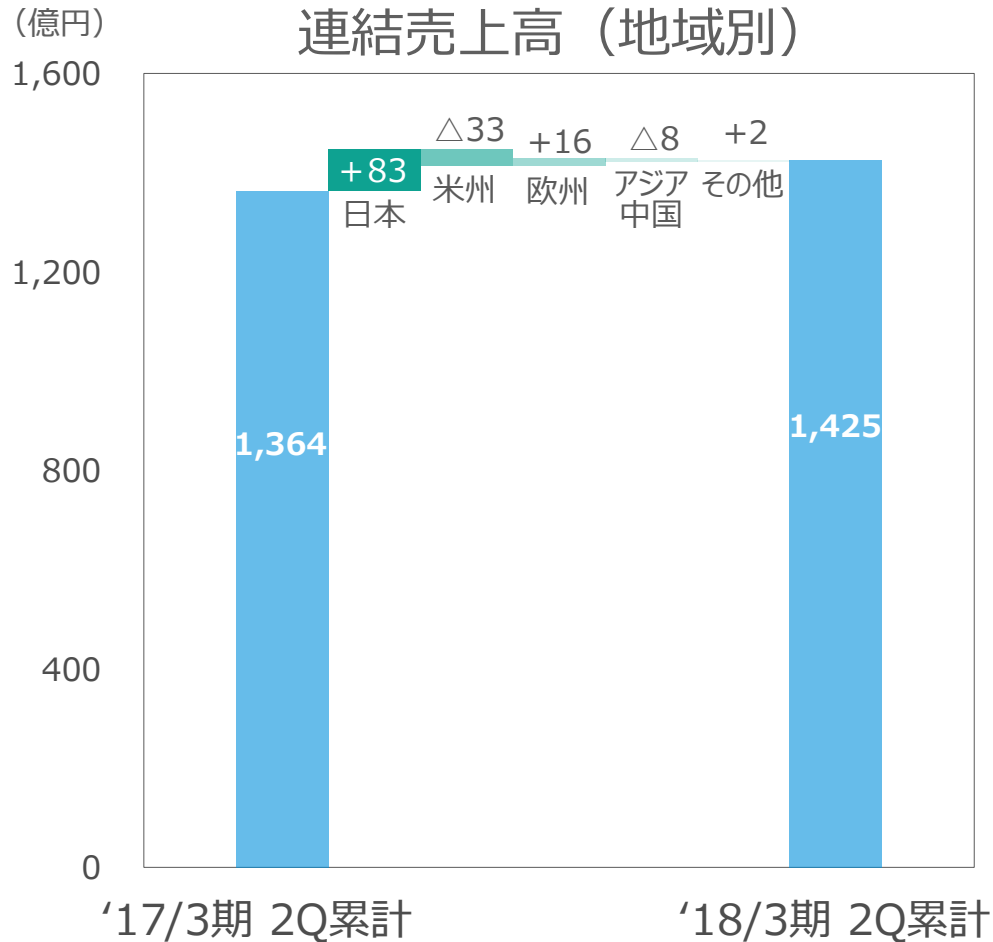
2018年3月期 2Q決算 MS分野 四半期別実績推移



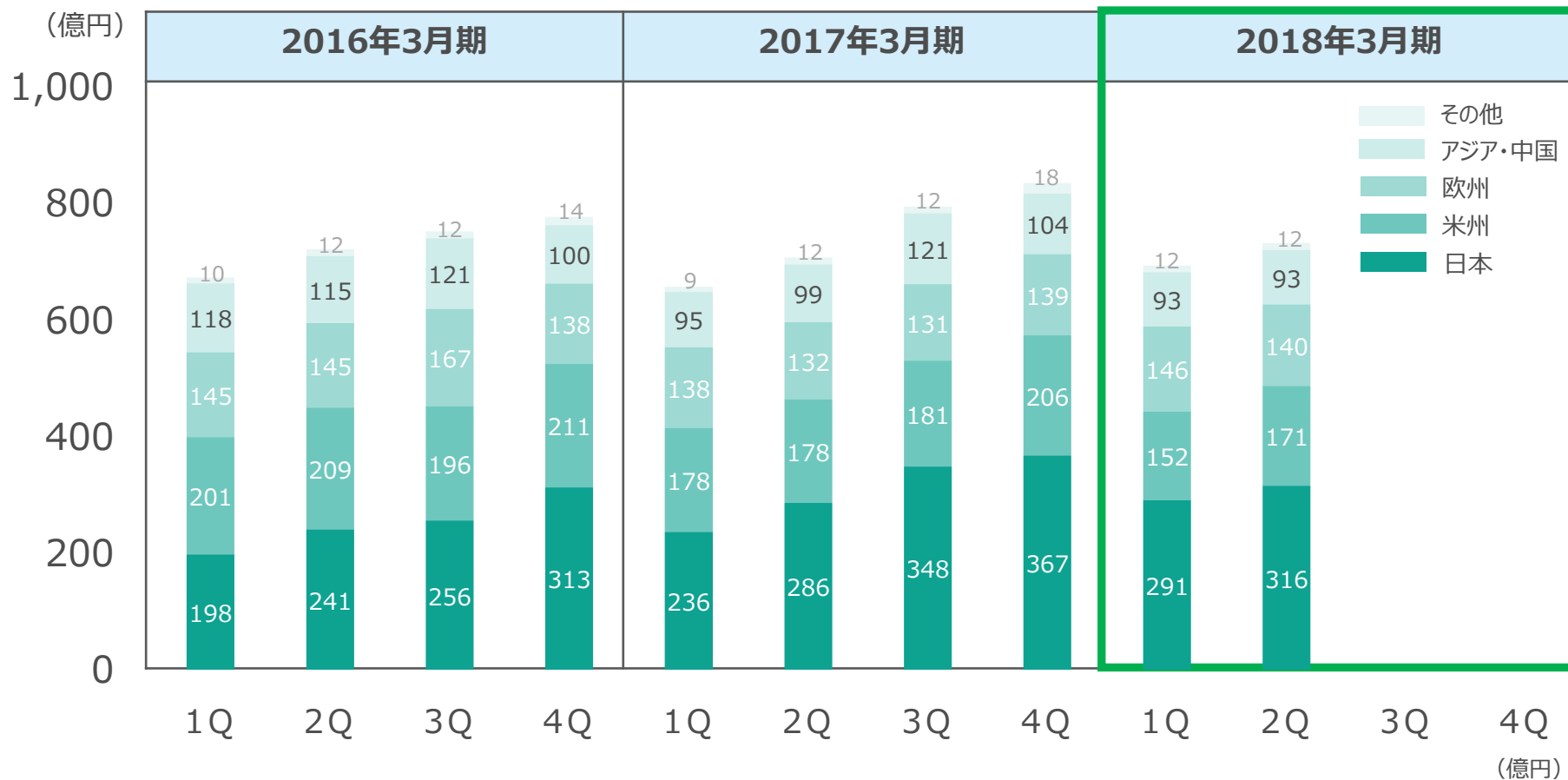
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	333	361	322	406	285	
営業利益	△ 0	16	△ 4	27	△ 3	

(億円)

2018年3月期 2Q決算（累計） 連結売上高（地域別）

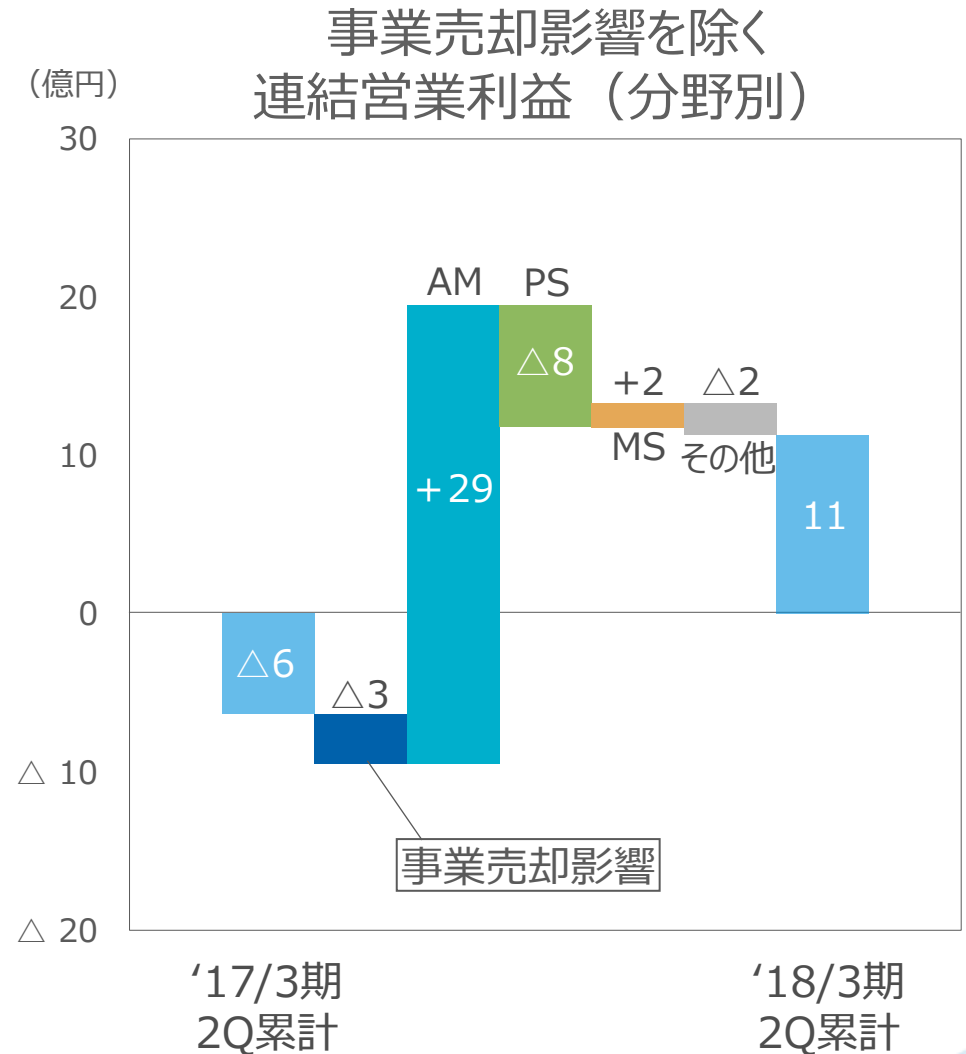
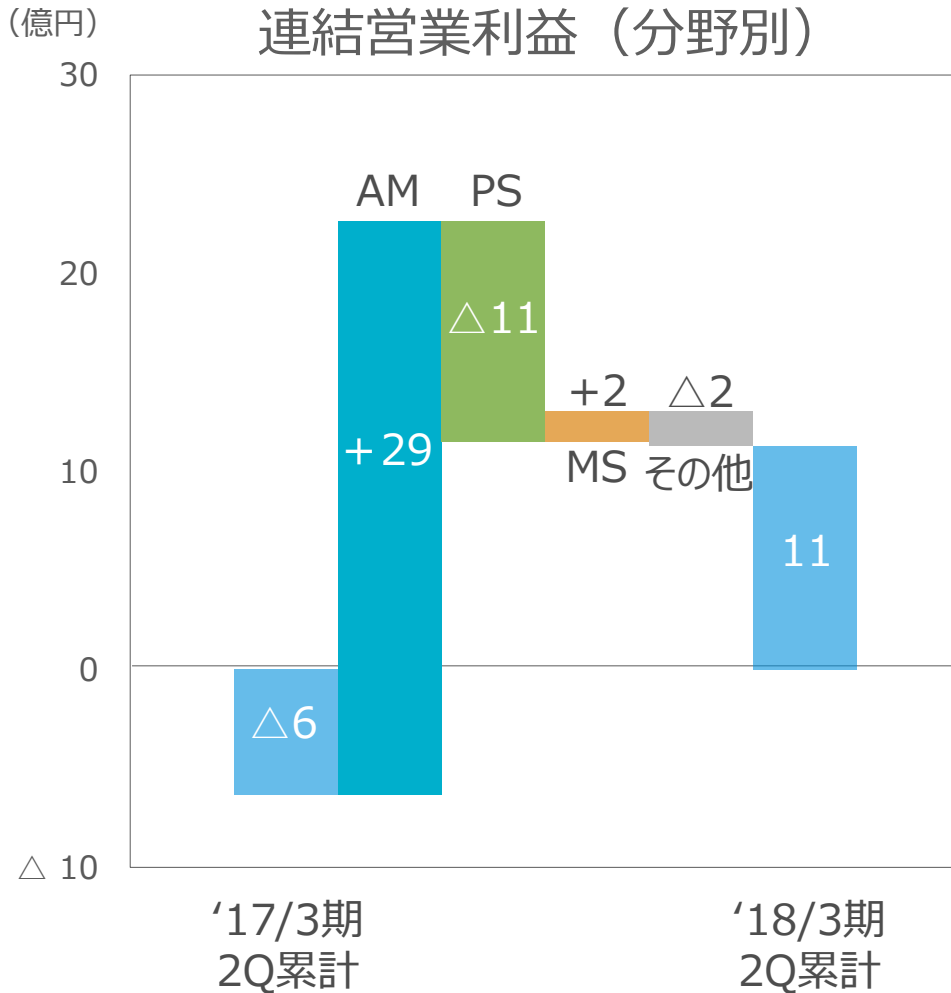


2018年3月期 2Q決算 地域別連結売上高推移



	上期	下期	上期	下期	上期	下期
日本	439	569	523	716	606	
米州	410	407	356	387	323	
欧州	290	305	270	271	285	
アジア・中国	233	221	194	225	186	
その他	22	26	21	30	24	

2018年3月期 2Q決算（累計） 連結営業利益（分野別）



2018年3月期 2Q決算（累計）

連結経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益

- 営業利益の大幅な増加により、経常利益は大幅に増加し黒字転換
- 経常利益の増加、特別損益の改善により、親会社株主に帰属する四半期純利益も損失大幅縮小

(億円)

	'17/3期 2Q累計	'18/3期 2Q累計	増減
営業利益	△ 6.3	11.3	+ 17.6
営業外収支	△ 8.6	△ 4.7	+ 3.8
経常利益	△ 14.9	6.5	+ 21.4
特別損益	△ 24.7	7.9	+ 32.7
法人税等	14.1	12.4	△ 1.7
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 57.4	△ 2.9	+ 54.5

2018年3月期 2Q決算（累計） 営業外収支・特別損益の状況

(百万円)

	'17/3期 2Q累計	'18/3期 2Q累計	増減
営業外収支	△ 855	△ 474	+381
営業外収益	569	651	+82
受取利息	79	85	+6
受取配当金	169	106	△ 63
その他	319	459	+140
営業外費用	1,424	1,125	△ 299
支払利息	483	456	△ 27
為替差損	264	144	△ 120
その他	677	524	△ 153
特別損益	△ 2,474	790	+3,264
特別利益	167	840	+673
固定資産売却益	90	82	△ 8
投資有価証券売却益	8	716	+708
関係会社清算益	69	-	△ 69
その他	-	41	+41
特別損失	2,642	49	△ 2,593
固定資産売却損・除却損	1,364	37	△ 1,327
事業構造改革費用	68	6	△ 62
雇用構造改革費用	213	-	△ 213
関係会社清算損	272	-	△ 272
受注損失引当金繰入額	711	-	△ 711
その他	10	5	△ 5

2018年3月期 2Q決算 貸借対照表サマリー

(億円)

	'17/3期末	'18/3期 2Q末	増減
総資産	2,623	2,671	+ 48
有利子負債	703	695	△ 7
ネットデット	285	260	△ 25
ネットD/Eレシオ (倍)	0.51	0.45	△ 0.06
純資産	615	637	+ 22
自己資本	560	580	+ 19
自己資本比率 (%)	21.4	21.7	+ 0.3

2018年3月期 2Q決算（累計）キャッシュ・フロー サマリー

- 税金等調整前四半期純利益を計上したことに加えて、売上債権の回収による収入が増加したことなどから、営業キャッシュ・フローは増加
- 有形固定資産の取得による支出が減少したことに加えて、投資有価証券の売却による収入があったことなどから、投資キャッシュ・フローは支出が減少

(億円)

	'17/3期 2Q累計	'18/3期 2Q累計	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	42	85	+ 43
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 85	△ 40	+ 45
フリー・キャッシュ・フロー	△ 43	45	+ 88
財務活動によるキャッシュ・フロー	11	△ 26	△ 37
合計	△ 32	19	+ 51

※ フリー・キャッシュ・フロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

1. 2018年3月期 第2四半期決算概況

2. 2018年3月期 通期業績予想

3. トピックス

2018年3月期 通期業績予想

- 上期はPS分野の減収の影響など受けるも、AM分野OEM事業の販売が好調に推移したことなどから、全社では期初の想定を上回って推移
- 3Q以降はAM分野でOEM事業の好調な販売が見込まれることに加え、下期にかけてPS分野、MS分野での業績向上が発現する見込みではあるが、現時点では期初に公表した通期業績予想の変更は行わない

(億円)

	'17/3期 実績	'18/3期 予想	増減
売上高	2,993	2,950	△ 43
営業利益	58	64	+6
経常利益	36	44	+8
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 67	14	+81

		'17/3期実績	'18/3期想定
損益為替レート	1米ドル	108 円	113 円
	1ユーロ	119 円	121 円

1. 2018年3月期 第2四半期決算概況

2. 2018年3月期 通期業績予想

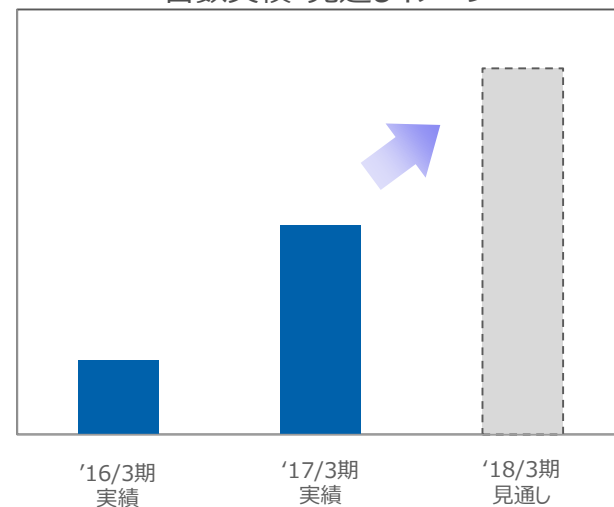
3. トピックス

トピックス① ドライブレコーダーの拡大

- 国内での市場拡大を受けて、「ラインアップ拡充」「ナビ連携機能の強化」、「法人需要の取り込み」による販路拡大などによりさらなる販売拡大



当社国内ドライブレコーダー
台数実績・見通しイメージ



- 市場拡大を見越して、米州や欧州でも本格導入開始

Full Hi-Vision & Hi-Definition recording Dashboard Camera

Full HD
1920x1080

Safety & High-Definition

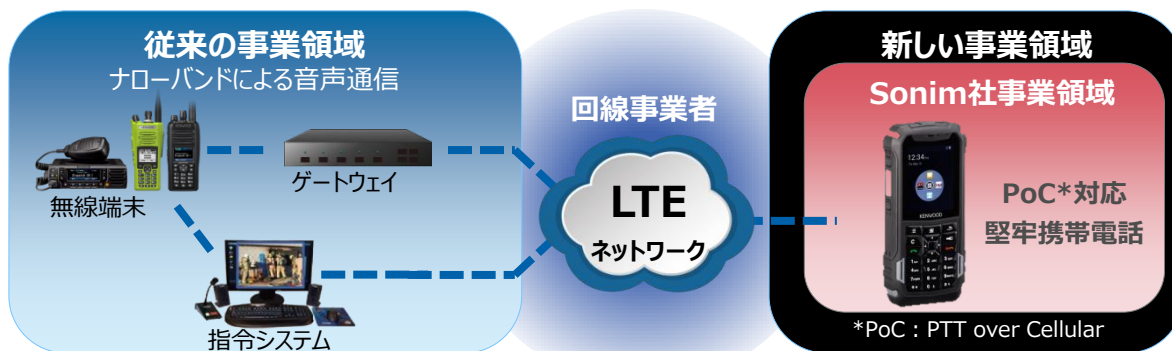
トピックス② 次世代IoTソリューション事業への取り組み

- 三和交通とタクシー配車システムの開発・導入に向けた業務協働開始
- 業務用無線機器とカーナビゲーションを含む表示機を一つのセンター端末に集約 → 決済機やタクシーメーターも含めた統合システム開発
- 将来的には幅広い業務用車両向けのテレマティクスソリューションへと拡大



トピックス③ 無線システム事業の取り組み

■ 米Sonim社協業によりKENWOODブランドIP無線端末の事業化推進



<米Sonim社連携によるIP無線ソリューションイメージ>



■ 国内外で公共市場向け業務用無線システムの大型受注獲得

- ニュージャージー州、インディアナ州の電力&ガス会社向け無線システム (Zetron)
- 国土交通省関連デジタル連絡用無線システム (国内)



トピックス④ 業務用システム事業でのソリューション強化

- 交通インフラにおける多言語放送に対応した非常放送設備の受注やIVA（インテリジェントビデオ解析システム）の国内物流会社への導入、顔認証システムの交通インフラへの導入などソリューションビジネスが進展
- JVCケンウッド・公共産業システム初となる「ソリューションフェア2017」を10月に開催、パートナー企業との協業（連携）による各種ソリューションのさらなる受注拡大をはかる



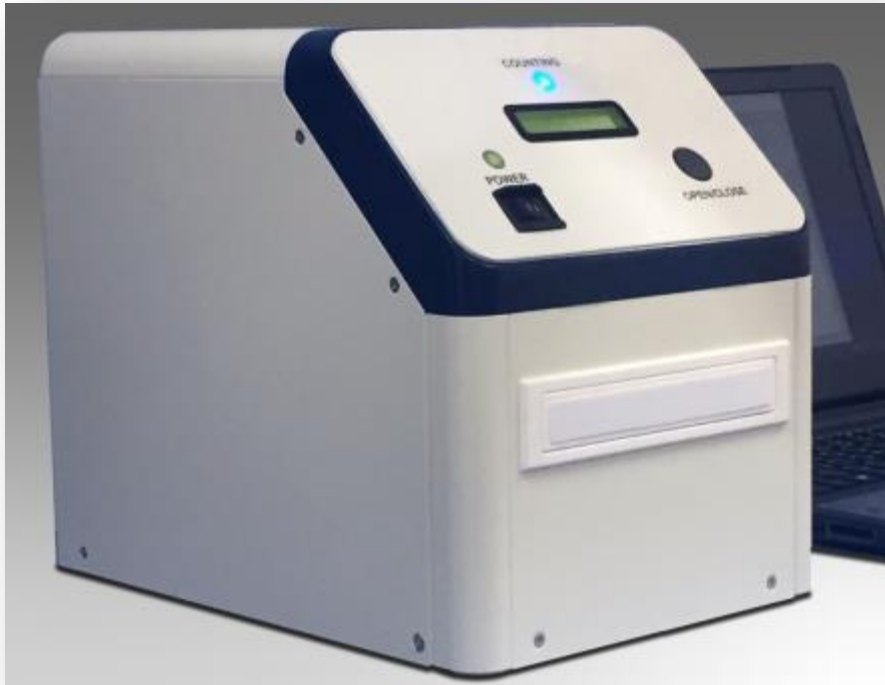
「ソリューションフェア2017」の様様



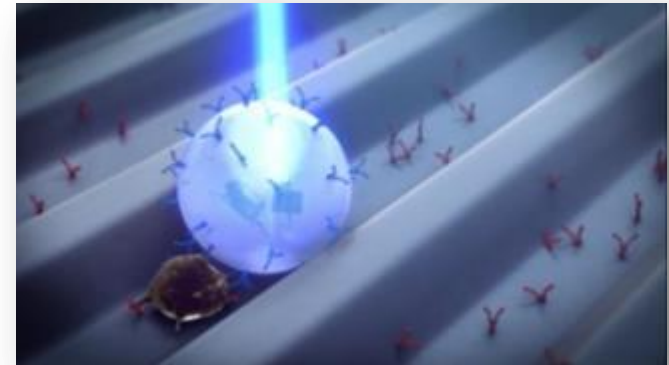
「映像解析」や「働き方改革」などのソリューションを提案

トピックス⑤ がんの診断・治療の質向上に向けた共同研究

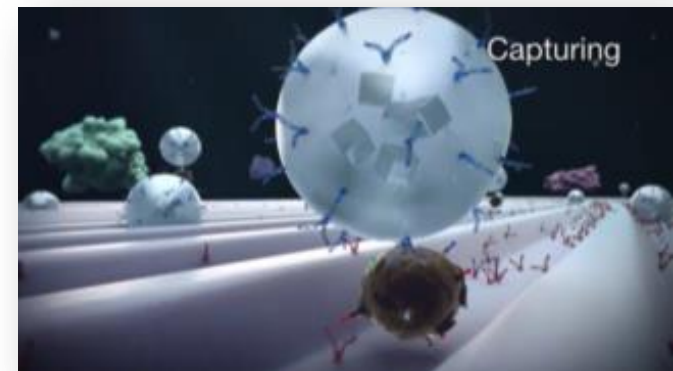
- がん患者の血液中エクソソーム測定によるがんの診断・治療の質向上に向け、国立がん研究センター、第一三共、シスメックスと共同研究を開始
- 当社が保有するエクソソーム測定装置「ExoCounter」により、特定のエクソソームを検出する技術を構築へ



エクソソーム測定装置「ExoCounter」



光ディスク技術で数を測定



疾患と関係のあるエクソソームの選別

トピックス⑥ メディア事業での取り組み 1

■ Bluetooth対応ヘッドホンラインアップ強化

- 9月にドイツで開催された「IFA2017」にてスポーツ対応モデルやハイレゾ音源対応モデルなど新商品ラインアップを展示



- 国内でも続々とラインアップ強化



トピックス⑥ メディア事業での取り組み 2

- 大手シミュレータ企業と新規契約締結
 - 顧客ニーズに応える業務用中型4Kプロジェクターの提案による信頼獲得と、さらなる高度な要望と需要に対応

- ビクター90周年記念モデル「WiZMUSIC」発売
 - 頭外定位技術「EXOFIELD」を搭載した音場特性カスタマイズサービス「WiZMUSIC」発売開始！



トピックス⑦ エンタテインメント事業での取り組み

■ ハイレゾ音響空間ソリューション「KooNe」

- 企業の“働き方改革”を追い風に導入案件が増加
- JVCケンウッド・公共産業システムとの連携による提案力強化でさらなる受注拡大



■ エンタテインメント作品

- 2Q貢献作品 桑田佳祐 アルバム「がらくた」
 星野源 シングル「Family Song」
 家入レオ シングル「ずっと、ふたりで」
- 3Q期待作品 桑田佳祐 BD+DVD「MVP」(12/13リリース)
 大原櫻子 シングル「さよなら」(11/22リリース)

参考) 進化するドライブレコーダー



テレマティクス
安全運転サポート/サービス

自動運転
コネクテッドカー



運転支援



映像記録



640x480
ピクセル録画



モニター装備モデル
登場



Full HD映像記録
1920x1080ピクセル録画
Gセンサー内蔵
GPS内蔵



2034x1296ピクセル録画
運転支援機能搭載



2003年 2005年 2010年 2014年 2017年 2020年

JVCケンウッド市場参入

参考) ヘルスケアのIoT化への対応

■ 2020年には300億米ドルの規模に達すると予想されるポイントオブケア検査 (POCT) 市場への参入検討

POCTとは、患者が開業医や救急車、自宅、屋外、病院などの様々な場所で診断を受けられ、結果がその場で得られる検査であり、救急治療が可能となる結果、医療サービスの大幅改善につながる。



JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。